

営農情報



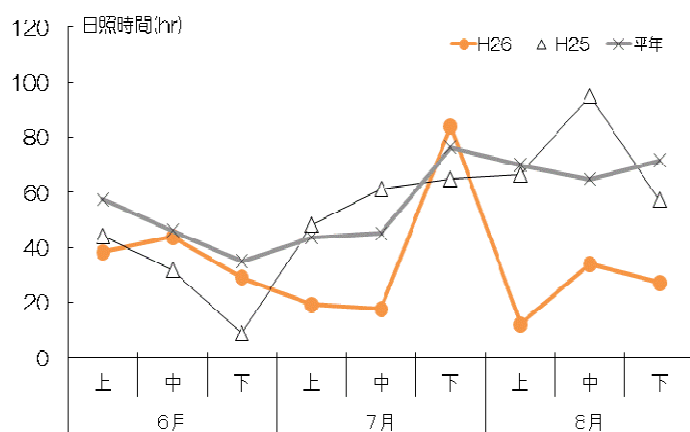
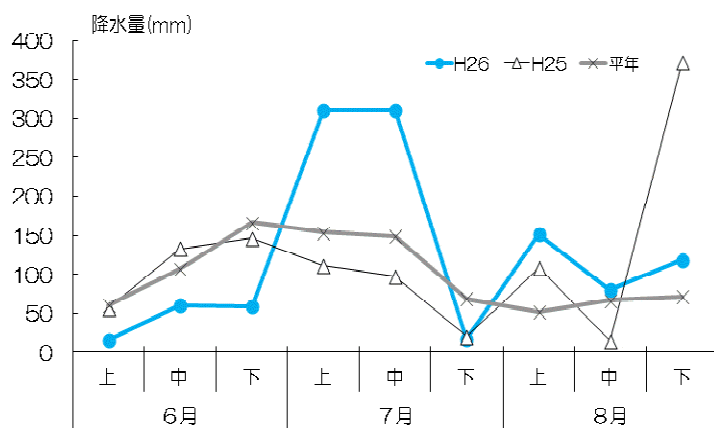
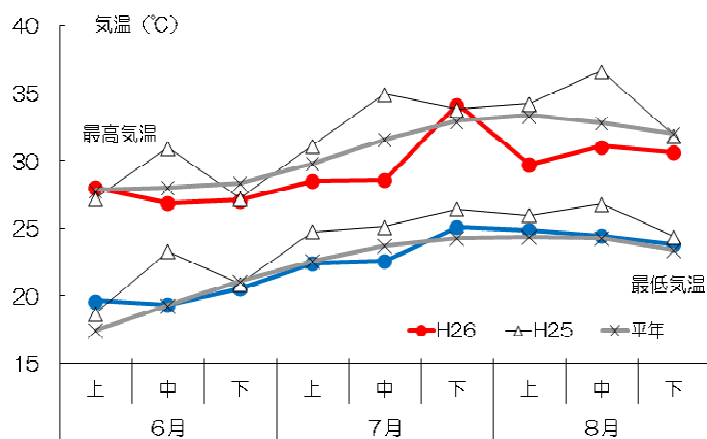
「あまおう」9月の管理

第27号 平成26年9月1日

南筑後普及指導センター
福岡大城農業協同組合

今年は梅雨明け後、曇雨天による日照不足が続き気温も低く推移したため、展葉スピードが遅く、根量も少なく苗も小ぶりです。また、断続的な降雨により、本ぼの準備が遅れているほ場が目立ちます。天候とほ場の土壌水分を見ながら、計画的に準備を行って下さい。

病害虫では、8月に入って「炭そ病」及び「疫病」がやや多くなっており、「ハダニ類」や「アブラムシ類」、「ヨトウムシ」も見受けられます。病害虫を本ぼに持ち込まないように、発病株の早期発見・早期除去並びに防除の徹底に努めて下さい。



日照時間の平年比 (梅雨明け後)

7月下旬：84.1時間 (平年比 106%)

8月上旬：12.2時間 (平年比 17%)

8月中旬：34.0時間 (平年比 53%)

<アメダスデータ久留米より>

育苗管理 (普通ポット)

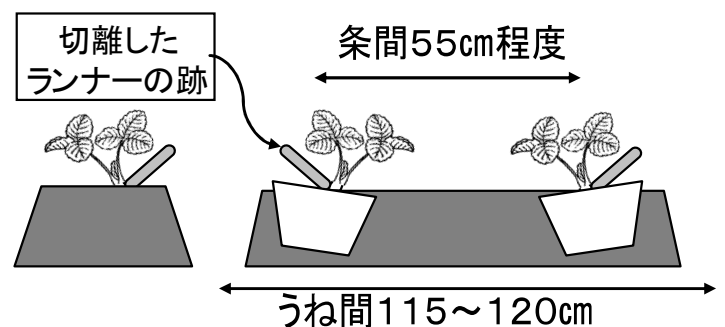
- 体内窒素が切れているところがありますが、降雨により追肥ができない状況が見受けられます。生育状況を見ながら、既に肥料が切れているほ場では液肥等で追肥を行う。
- 根張りが悪い (根傷み・根量不足) 場合は、回復するまで葉面散布 (OKF-1 1,000倍、メリット青 500倍など) を2~3回行う。

定植

- 畝を作った後は、定植までビニル被覆（べたかけ）を行う。
- 早い作型ほど高温時の定植になるので、活着促進・根痛み防止のために、定植前に寒冷紗を被覆し地温を下げる。
- 内成りの場合、条間は55cmを目安にし、狭くならないように注意する。
- 株間は、土耕栽培で25cm、高設栽培で20～23cmを目安にする。
- 定植前には必ず花芽検鏡を行い、最適な花芽分化ステージになってから定植する。
- 深植えは、生育不良になりやすいため注意する。
- 果梗は、クラウンの傾いた方向に伸びやすいので、果実を成らせる方向に苗をやや傾けて定植する。
- 疫病予防のため、定植時に「リドミル粒剤2」の作条土壌混和を行う。

＜定植日と花芽分化程度の見目安＞

定植日	花芽分化程度
9月10～14日	分化～ <u>ガク片形成</u>
9月15～18日	<u>分化</u> ～ガク片形成
9月19～22日	分化
9月23日～	肥厚後期



定植後の管理

● 寒冷紗被覆

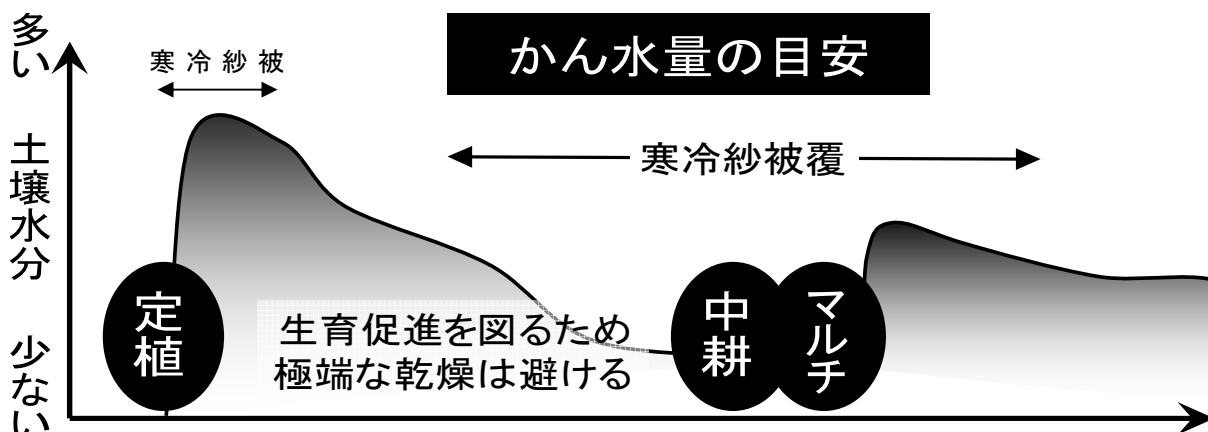
- 定植後の活着促進のため、早朝に心葉から溢液が出るまで、7～10日間程度被覆を行う。ただし、曇雨天などが続く場合は軟弱徒長の原因となるので、早めに除去する。

＜ 寒冷紗の種類と遮光率 ＞

種類	遮光率
シルバー寒冷紗109番	39%程度
黒寒冷紗600番	51%程度
黒寒冷紗610番	58%程度

● かん水

- 定植直後は、活着まで畝の表面が乾燥しないように充分かん水を行う。
- 一次根の発生を促進するため、クラウン部が常に湿るように頭上からの散水を少量多回数で行う。



(裏面につづく)

● 2番果房分化対策

作型によって2番果房の連続性が異なるため、各作型に応じた対策を行う。

◆ 早期作型の場合（株が旺盛になりやすく、2番果房が遅れやすい）

- ・ 基肥量の削減や速効性肥料の使用抑制で、活着後の肥効を抑える。
- ・ 活着後は、勢いをつけすぎないように徐々にかん水を控える。
ただし、極端に乾燥させすぎると生育が遅れるので、土壌水分を見ながら適宜行う。
- ・ 寒冷紗被覆を行う。（被覆時期の目安：9月25日頃から10月20日頃まで）
- ・ 追肥は、2番花房の花芽分化を確認してから行う。
- ・ マルチ被覆後は、地温抑制のためマルチの裾を畝の肩まで上げておく。

【寒冷紗被覆時の注意点】

- ・ ほ場が乾きにくくなるため、かん水の回数や量を調整する。
- ・ 天候によっては軟弱徒長しやすいため、通気性を確保し、「うどんこ病」の予防防除を徹底する。

◆ 普通ポットの場合（2番果房が続きやすい）

- ・ 活着後は、かん水制限などによる生育抑制や、寒冷紗被覆は行わない。
- ・ 活着不良などで生育が悪い場合、葉面散布での施肥やマルチ被覆時期を早めるなどで、生育促進に努める。

病害虫防除

害虫は発生初期の防除、病気は発生前の予防防除が重要である。

定植後の薬剤散布は、苗が活着してから始める。

● 炭そ病

- 発病した苗は育苗床から除去し、周辺の苗も罹病の可能性があるためできるだけ使用しない。
- 定期的な予防防除を徹底する。

● うどんこ病

- 定植後からビニル被覆まで、定期的に予防防除を行う。
- 軟弱徒長気味に生育すると発病・拡大しやすくなり、寒冷紗を被覆した場合は、軟弱徒長しやすくなるため特に注意する。

● アブラムシ

- ほ場周辺の雑草を除去する。
- 発生初期からの防除を徹底する。

● ハスモンヨトウ・オオタバコガ

- 発生初期の若齢幼虫時（体長1cm程度まで）の防除が重要である。
- 大豆畑周辺のほ場では、特に周辺からの飛込みが多いので注意する。

● ハダニ類

- 葉の裏に生息しているため、葉数が多くなれば薬剤がかかりにくくなる。そのため、定植後の下葉除去後及びマルチ被覆直後は、特にしっかりと防除する。
- 天敵のチリカブリダニを使用する場合は、影響の有無を確認し、影響が長い農薬の使用を避ける。

土壤消毒

畝立て後の土壤消毒として、これからクロルピクリン錠剤を使用される場合は、最低でも10～15日間以上の処理日数が必要となる。処理期間が短いと定植後にガス害の発生が原因で生育不良となるので、定植時期や処理期間などを考慮して検討する。

<クロルピクリン錠剤使用方法>

- ・錠剤は、「うね面1㎡当たり10錠」を目安に畝の表面に散布します。全面処理に比べて、6割位の処理量となる。
- ・錠剤散布後に軽く土をかけ、全体を古ビニル等で被覆する。錠剤がビニルに直接接触すると、破れる恐れがあるので注意する。
- ・ガス抜きは不要です。標準的なくん蒸期間の表を目安に被覆を除去し、定植を行って下さい。

標準的なくん蒸発期間(ビニル被覆期間)

平均地温	くん蒸期間
25～30℃	約10日
15～25℃	10～15日
10～15℃	15～20日
7～10℃	20～30日

● センチュウ

- 曇雨天の影響で、太陽熱消毒の効果の低下が懸念されます。前作でセンチュウの発生が見受けられたほ場では、植付け直前に粒剤を散布して下さい。

農薬名	使用量	本剤の使用回数	使用時期
アドバンテージ粒剤	10～20 kg/10a	1回	本圃定植時

※使用方法：本圃の植付直前に植溝又は全面に均一に散布し、土壌と混和する。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！